アートと環境の未来・山口
YCAM10周年記念祭

2013年4月19日 プレスリリース

山口情報芸術センター［YCAM］10周年記念祭
パフォーマンス／インスタレーション作品

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge（シュティフタース・ディンゲ）」

2013年7月13日（土）19:00開演、14日（日）14:00開演＆19:00開演、15日（月・祝）14:00開演
山口情報芸術センター［YCAM］スタジオA

光、音、声、霧、風、水、氷、絵画、5台のピアノ
事物のざわめきに満ちた機械仕掛けの〈自然〉

山口情報芸術センター［YCAM］では、YCAM10周年記念祭の一環として、現代を代表する作曲家で演出家のハイナー・ゲッベルスのパフォーマンス／インスタレーション作品「Stifters Dinge（シュティフタース・ディンゲ）」を日本国内で初めて上演いたします。

ゲッベルスは、作曲家としてキャリアをスタートした後、90年代からは朗読と音楽で構築された「ミュージック・シアター」と呼ばれる作品を多数発表してきました。今回上演する「Stifters Dinge」もその1つで、〈人間不在の演劇〉をテーマとした作品です。

本作で人間に代わり登場するのは、私たちの周囲に普遍的に存在する霧や風、水、氷、砂、そして舞台中央に置かれた5台のピアノが自動的に紡ぎ出す音楽と、自然について語る人々の声です。これらの事物が結びつきながら変容することで、舞台上に壮大な〈自然〉が出現し、パフォーマンスが展開していきます。

見ること／聞くことの再発見を促す本作は、10周年記念祭のテーマである〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉への深い洞察をもたらすことでしょう。ゲッベルスの傑作をこの機会にぜひお楽しみください。

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」
Photo and Copyright: MARIO DEL CURTO

関連イベント

2013年7月13日（土）15:00 - 17:00
プレレクチャー（講師：新野守広）

2013年7月14日（日）15:45 - 17:00
坂本龍一×ハイナー・ゲッベルス
YCAM10周年記念祭オープニングトーク「〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉」

この機会に、取材や記事掲載にご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

お問い合わせ　山口情報芸術センター［YCAM］情報制作課 田中・澤田
TEL：083-901-2222　FAX：083-901-2216　メールアドレス：press@ycam.jp
〒753-0075 山口県山口市中園町7-7　http://www.ycam.jp
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

現代の音楽／演劇シーンを代表する作曲家／演出家、ハイナー・ゲッベルス

ハイナー・ゲッベルス「ERARITJARITJAKA」（2004年）
Photo and Copyright: MARIO DEL CURTO

1つのジャンルに収まらない多彩な活動をしてきたハイナー・ゲッベルス。音楽と社会学を学んだ後、1970年代から作曲活動を開始し、アルフレート・ハルトとのデュオや、ロックトリオ「カシーバー」で活躍するなど、オルタナティヴ・ミュージックシーンで重要な位置を占めてきました。その一方で、演劇、映画、バレエのための楽曲提供をおこなっており、80年代半ばに入ると自身の演劇作品やコンサートの演出、作曲を開始。その作品はドクメンタX（1997年）やポンピドゥーセンター（2000年）など、広く現代アートの文脈でも紹介されてきました。

テキストを演奏し、音楽を読む

「Stifters Dinge」などの「ミュージック・シアター」と呼ばれる作品群をはじめ、音楽とテクストが密接に結びついているゲッベルス作品。これまでハイナー・ミュラーやサミュエル・ベケット、ガートルード・スタインなど、特徴ある作家たちのテクストを扱ってきました。その解釈は、物語性や意味論だけではなく、作家の執筆のスタイル、テクストの構造にまで迫るものです。

本作に登場するシュティフターについても、ゲッベルスはその物語を舞台で再現するのではなく、登場人物を取り巻く自然や物の描写に注目しています。シュティフターの、ときに引き延ばされた時間感覚や、繰り返しなどの独特のリズム、そして自然を抽象的で美的な存在として提示するスタイル。本作は、そうしたシュティフターの筆致が、作曲、作品全体に拡張された〈演劇〉とも言えるのです。

ハイナー・ゲッベルス

Photo: Wonge Bergmann

1952年生まれ。コンサート、ラジオ作品、アンサンブルやオーケストラのための楽曲などを創作してきた。90年代初めから朗読と音楽で構築する「ミュージック・シアター」を作曲、演出。それらは主にテアトル・ヴィディ・ローザンヌ（スイス）によってプロデュースされ、世界の著名なフェスティバルや劇場で上演されている。近作に「Songs of Wars I have seen」（2007年）、「I went to the house but did not enter」（2008年）、「When the Mountain changed its clothing」（2012年）、「John Cage : Europeras 1&2」（2012年）など。

現在、ユストゥス・リービッヒ大学ギーセン／インスティチュート・フォー・アプライド・シアター教授、シアター・アカデミー・ヘッセン代表。2012年から2014年まで、国際芸術祭ルールトリエンナーレのアーティスティック・ディレクター。2012年には世界で最も権威のある演劇賞と言われる国際イプセン賞を受賞。

俳優不在の演劇、ミュージシャンのいないコンサート「Stifters Dinge」

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」
Photo and Copyright: MARIO DEL CURTO

Stifters Dinge―自然を知るために地底基地へ降りていく体験
―ハイナー・ゲッベルス

日本初上演となる「Stifters Dinge」は、〈人間不在の演劇〉そして〈自然と人間の営為〉をテーマに、19世紀のオーストリアの作家／画家のアーダルベルト・シュティフターの小説に刺激を受けて制作された作品です。

「マルチメディア・インスタレーション」ともいえる本作では、観客は、俳優や音楽家に代わって主役を務める、数々の事物（Dinge）の変化に耳を澄ませ、目を見張ることになります。

舞台中央には5台のピアノが内部を晒した状態で設置され、自動的に音楽やノイズを発するようプログラムされています。ここに古今東西の様々な楽曲のほか、シュティフターの著書「曾祖父の遺稿」（1847年）の一節を読み上げる音声や、文化人類学者クロード・レヴィ＝ストロースのインタビュー音源、パプアニューギニアの歌といった自然について語る人々の声などが引用され重ね合わされます。さらに機械で制御された氷や水、風、砂といった要素が織りなす〈自然〉のざわめきも含めた精緻な音響空間も見どころの1つです。

人間不在のまま、テクストと人工的な自然が共鳴し、展開していく本作は、〈美〉や〈自然〉に対する人間の意識とともに、従来人間が中心に据えられるはずの舞台と観客の関係という演劇の基本構造すらも問い直す刺激的な作品です。

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge」

日本初演作品
（世界初演：2007年9月13日 テアトル・ヴィディ・ローザンヌ）

コンセプト・音楽・演出：
ハイナー・ゲッベルス

セット・デザイン、照明、映像：
クラウス・グリューンベルク

音楽、プログラミング・コラボレーション：
フーベルト・マハニック

サウンド・デザイン：
ヴィリー・ボップ

アシスタント：
マティアス・モーア

製作：
テアトル・ヴィディーローザンヌ

共同製作：
Spielzeiteuropa I Berliner Festspiele, Grand Théâtre de la Ville de Luxembourg, Schauspielfrankfurt, T & M – Théâtre de Genevilliers / CDN, Pour-cent culturel Migros

共同委嘱：
Artangel London

製作協力：
Pro Helvetia - Fondation suisse pour la culture

アーダルベルト・シュティフター

オーストリアの小説家・画家。1805年～1868年。画家として活動の後、処女作「コンドル」が出版されて以降、作家としても活躍する。その後、1848年に勃発した3月革命以降、教育活動に目覚め、オーストリアの国民学校の視学官として従事、子ども向けの作品も執筆した。文学作品の特徴として緻密な自然・地誌描写が挙げられる。著作に短編集『石さまざま』（1857年）、長編小説『晩夏』（1857年）『ヴィティコー』（1865～1867年）など。

本作を読み解くレクチャーのほか、坂本龍一のトークイベントも開催！

今回、関連イベントとして、本作への理解を深める２つのトークイベントをご用意しています。
13日の初演直前には、ドイツ演劇批評の新野守広氏をお招きし、ドイツの演劇史や社会動向との関係からゲッベルスの活動の軌跡を辿るレクチャーを開催します。また14日には、10周年記念祭総合アーティスティック・ディレクターを務める坂本龍一とゲッベルスのトークセッションを開催。同世代の２人の世界的アーティストが、作品を通じて10周年記念祭のテーマである〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉、そして未来へのビジョンについて語り合います。

YCAM10周年記念祭アーティスティック・ディレクター
坂本龍一

プレレクチャー（講師：新野守広）
2013年7月13日（土）15:00-17:00　会場：スタジオC（全席自由）

坂本龍一×ハイナー・ゲッベルス
YCAM10周年記念祭オープニングトーク「〈アート〉〈環境〉〈ライフ〉」
2013年7月14日（日）15:45-17:00　会場：スタジオA（全席自由）

※いずれも、入場無料、未就学児童入場不可、公演チケット購入の際に要申込（公演チケットをお持ちでない方は当日残席があれば入場可）

開催概要

ハイナー・ゲッベルス「Stifters Dinge（シュティフタース・ディンゲ）」

2013年7月13日（土）19:00開演
7月14日（日）14:00開演／19:00開演
7月15日（月・祝）14:00開演

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席にご案内できない場合がございます。予めご了承下さい。

会場：山口情報芸術センター［YCAM］スタジオA

主催：山口市、公益財団法人山口市文化振興財団
後援：山口市教育委員会、大阪ドイツ文化センター
本公演は宝くじの助成を受けて実施しています
企画制作：山口情報芸術センター[YCAM]

託児サービス
対象：0才（6ヶ月）以上
託児時間：開始の30分前から終了30分後まで
料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円
申込方法：7月6日（土）までに、チケットインフォメーションまでお申し込みください。

車椅子席・補聴システム
事前にお問い合わせください

チケット情報

発売日：
一般発売　5月11日（土）
any会員先行発売　5月4日（土）

料金：

前売	一般	4,000円
	any・特別割引	3,500円
	25歳以下	3,300円
当日	4,500円 ※当日は各種割引対象外	

※未就学児入場不可
※特別割引：シニア（65歳以上）、障がい者及び同行の介護者1名が対象

電話／窓口：
山口市文化振興財団チケットインフォメーション
083-920-6111
10:00-19:00※火曜休館、祝日の場合は翌日

インターネット：
www.ycfcp.or.jp
24時間受付※要事前登録

※関連イベントはインターネットでの申し込みを受け付けておりません。参加を希望される方は、電話または窓口にてご予約ください。